

Career Up Stage

中国古典、「論語」「三国志」の名言を理解すると、今後の人生の教訓になります。人との会話で教養としても使ってみよう。

中国古典に学ぶ

孔子の「論語」とは

孔子は儒家で、孔子と弟子たちとの問答をまとめたものが「論語」です。孔子は日本の菅原道真のような学問の神様的な存在で、沖縄にも孔子廟(波の上)があります。

紀元前5世紀ごろに生きた人の言葉とは信じられないくらい、現代の私たちにも響く言葉が多くあります。今回はその中から、いくつかを抜き出して紹介します。これからの学校生活や進路の参考にしてください。

「**学んで思わざれば即ちくらし。思うて学ばざれば即ちあやうし。**」

学んでも考えなければ、ものごとははっきりしない。考えても学ばなければ独断におちいって危険である。

「**我れ三人行れば必ず我が師を得。其の善き者を択びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改む。**」

わたしは三人で行動したら、きっとそこに自分の師を見つける。善い人を選んでそれに見ならい、善くない人にはその善くないことをわが身について直すからだ。

「**己の欲せざる所は、人に施す勿れ。**」

自分が嫌だと感じることは、人にしてはいけない。

「**義を見て為ざるは、勇無きなり。**」

人としてなすべきことと知りながら、

それを行わないのは、勇気がないためである。

「**巧言令色、鮮な仁。**」

言葉巧みで誰にでも愛想のいい人間は、信用できない。

「**過ぎたるは、及ばざるがごとし。**」

ゆきすぎたのはゆきたりないのと同じようなものだ。

「**過ちて改めざる、是れを過ちという。**」

過ちをしても改めない。これを本当の過ちというのだ。

「**知らざるを知らずと為せ。是れを知るなり。**」

知らないことを知らないと自覚する。それが本当の知ること。

「**学べばすなわち、固ならず。**」

学問により、視野も広がり、柔軟となって、頑固さがなくなるということ。

現代社会は、技術や産業が発展し生活等は便利になり、豊かな世の中になっています。しかし、精神面は、物質面に比べていつの時代も変わっていない気がします。

なぜなら、何千年前の孔子の格言等が、現在の人達の人生の教訓とし、て今でも通用するからです。

先人の英知を学び、謙虚な気持ちや姿勢を忘れずに、自分の行動を振り返り、これからの学校生活を過ごしていきましょう。

「三国志」とは

中国の後漢末期～晋王朝が天下統一するまでの歴史を綴ったもの。魏の曹操、呉の孫権、蜀の劉備、違う時代に生きていれば天下をとっていたであろう3人が同じ時代に並び立つ。昨日の友は今日の敵、逆もまたしかり。戦乱の中で繰り広げられる人間模様が大きな魅力となっている。その代表的な言葉の意味と史実を紹介しします。

「**三顧の礼。**」

(意味)・・・目上の人信頼できる人物を敬意をつくして招くことをいう。

【史実】・・・蜀の劉備が諸葛亮孔明を参謀として召し抱える際、劉備自ら出向いていった。ところが留守で会えず、三度目でようやく会うことができた。

「**泣いて馬謖を斬る。**」

(意味)・・・規律を守るために、私情をはさまずに処断すること。情においては忍びないことを決行するたとえ。

【史実】・・・馬謖は俊英で、孔明にその才を愛され、合戦の先鋒の指揮官に起用された。しかし、孔明の指令を無視し、山上に陣をしいたため、水源をたたれ敗戦した。軍律違反を犯した馬謖を孔明は泣いて処刑し、全軍にわびた。

「**破竹の勢い。**」

(意味)・・・勢いが激しくて、とどめることができないこと。猛烈な勢いで進んでいくこと。

【史実】・・・將軍杜預は呉に攻勢をかけます。もっとゆっくり攻めるべきだと進言する者もいましたが、杜預は「わが軍は勢いに乗っている、あとは竹を割るようなものだ」と言って呉を攻め滅ぼした。

「**苦肉の策。**」

(意味)・・・現在では、苦しませるに考え出した手段をいうが、元々は自分の身を苦しめてまでも敵をあざむくはかりごとをいう。

【史実】・・・赤壁の戦いで、黄蓋は偽りの投降の手紙を送った。しかし、曹操が疑う素振りを見せたので、ひと芝居うち、血まみれになるまで打ち据えられることによって曹操を信用させた。投降の日、黄蓋は船に枯草を積み、油をしみこませると幔幕(まんまく)で覆い、曹操軍に近づくと火を放った。身動きができぬほど船が密集していた曹操軍に燃えた船がつつこみ、曹操は敗走した。

「**死せる孔明生ける仲達を走らす。**」

(意味)・・・秀でた人物は死後も生きているものを恐れさせるということ。

【史実】・・・魏の仲達との対戦中に病没した孔明は、自分が死んだらそれを敵に知らせぬよう撤退せよとあらかじめ指示していた。敵軍は孔明の死を察し追撃したが、孔明軍が反撃の姿勢を見せたので、孔明はまだ生きていると思ひ、敵軍は恐れて追撃をやめた。

若い時の記憶力は

脳の記憶の中には、「単純記憶力」と「連想記憶力」があるとされています。

単純記憶力とは、多くの情報を一気につかんで、比較的長く維持できる能力、いわゆる記憶力のことで、この単純記憶力の入力性能については、13～15歳でピークを迎えると言われています。それは中学校の3年間です。

一方、連想記憶力とは、経験によって培われた知識ベースを使い、素早く的確にアウトプットする能力のことです。この連想記憶力のピークは、なんと、50歳代半ばだということです。つまり、入力性能のピークは15歳ですが、総合的な出力性能のピークは50歳ということになるのです。

私事ではありますが、昨日食べた夕飯のメニューは、なかなか思い出せなくても、中学校時代に覚えていた歴史的な事象等が鮮明に思い出されることがあります。

皆さんは、単純記憶力のピークにあります。数学の公式や英単語をはじめ、各教科の学習で覚える事象が多くあります。中学生の今の時期に、自分の記憶のカバンに多くの事柄を詰め込んでみてください。